

## 「ストレステストと再稼働問題の検証」への追記

本論考を書き上げた直後の9月24日、原子力規制委員会の田中俊一委員長は報道に対して、「再稼働のためには、新たな基準の作成と法制化を優先し、ストレステストの審査を行わない」との趣旨を述べた。唐突感は否めない。我々は、本論考で述べてきたように、ストレステスト(それも一次評価のみ)を再稼働の判断根拠とすることには一貫して反対してきた。しかし今後、当局側がストレステスト評価を実施しないというのであれば、最初にその理由を明確にするべきである。これまで、ストレステストをめぐる多くの労力と時間を費やし、世論を混乱させてきたことへの総括と真摯な反省なきまま、新基準作成作業へなだれ込むことは、これまでの愚と過ちを繰り返すことになるだけである。

ストレステスト一次評価のみでの再稼働は不適切であることは、本文中で詳しく述べたところであるが、その議論の中で明らかになった問題点は、今後の規制委員会での審査のなかで十分検討され、生かされるべきである。それを無視した安易な安全基準の策定は許されない。

9月25日

川井康郎